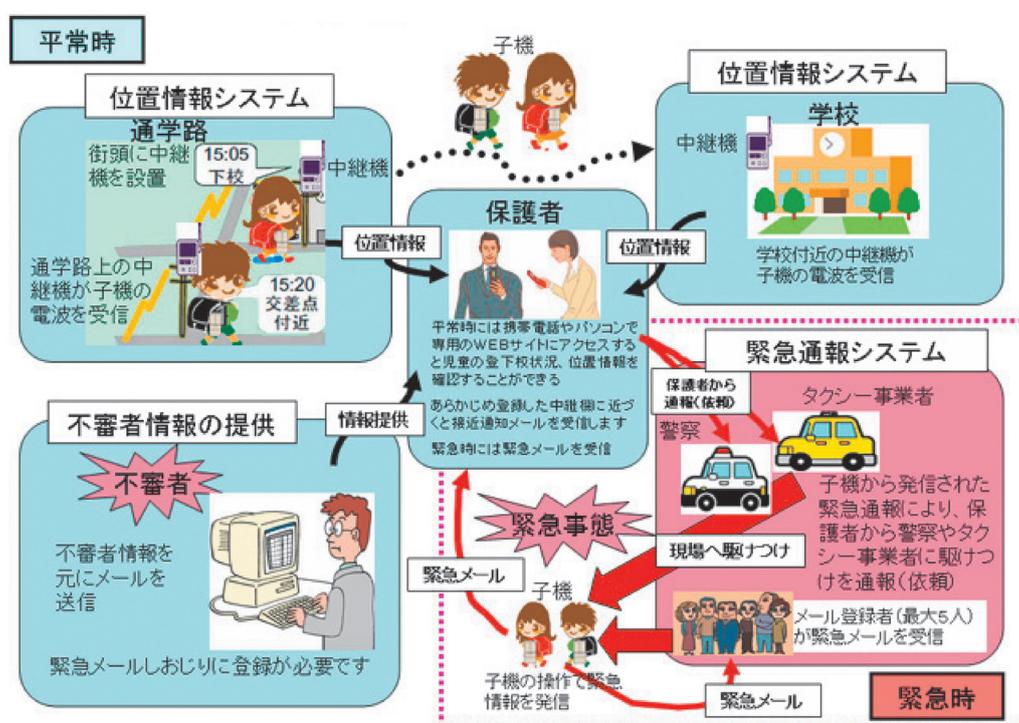


2.1.5 地域児童見守りシステムモデル事業(長野県塩尻市)

【概要】

市内9校の小学校通学区内に設置されたアドホック技術を用いた無線中継機をサインポストとしたネットワークと、児童が所有するアクティブ型の電子タグを活用した見守りモデルシステムを構築し、児童の登下校状況の確認や位置情報等を保護者に提供するとともに、非常時には緊急通報を発信することにより、児童の安全、保護者の安心を確保するため、PTA及び地域ボランティア等、地域が連携した体制を確立・検証するためにこのシステムを構築しました。

【平成18年度 地域児童見守りシステムモデル事業】



地域児童見守りシステムのイメージ

【コラム】

このシステムで実現する機能と成果を記します。

- ① 登下校確認：登下校経路上の任意のポイントを児童が通過したことを保護者に電子メールで通知するシステム。

このシステムは、保護者が必要ときに児童の通学状況を把握できるものですが、通常の経路で登下校する児童が通過すべきポイントを選択し、設定することで、安全情報として保護者が確認できると同時に、通学エリア内にある危険な地点をポイントとして登録することで、児童が近寄っては困る地点に近づいた場合の危険情報という、相反する情報の伝達にも活用が可能になりました。

今まで安全確認のためのシステムと思われがちなシステムですが、危険に対する予防を行うことができる点で、新たな考え方があることがわかりました。

- ② 情報提供：不審者情報、通学路の迂回情報等を小学校を単位として保護者に電子メールで通知するシステム。



特集 3

あなたが住む街の安心安全への取組

児童にとって、児童をターゲットとした事象ばかりが危険ではなく、銀行強盗や殺人事件などの凶悪犯の逃走経路に通学路が重なる場合も脅威となることが多いです。最近、身近で起こった殺人事件において、注意を喚起する一斉メールを送ることで安全に対する注意を喚起することができました。

- ③ 状態把握（通学路から離脱に対する注意喚起）：あらかじめ登録された通学路から児童が離脱すると、保護者に電子メールで通知するシステム。

児童の登下校のうち、特に下校時については、友人宅に立ち寄る場合が多いですが、あらかじめ通学路から外れた地点を情報として登録することで、通学路を離脱したときの情報を保護者にメールで伝えました。

友人宅や祖父母宅などあらかじめわかっているポイントを登録することで、児童の滞在地が判明して、安心な情報として保護者に知らせることができました。

- ④ 危険通報（児童に対する緊急事態への対応）：児童が携帯する電子タグの緊急引き抜きピンを引き抜くことにより、発信される緊急情報を保護者の携帯電話及び小学校へ地図情報を添付して、電子メールで通知するシステム。

児童が緊急状態を認識して、電子タグの緊急引き抜きピンを引き抜くことで、緊急通報が発信されるが、緊急情報を受け取った保護者は、時間帯などを考慮したうえで学校、警察、タクシー事業者に連絡する。また、工場などに勤務しているため携帯電話メールが利用できない保護者に対しては、あらかじめ学校の先生と協議の上、緊急情報の着信先を、担任の先生にするなどの措置を行なったうえで、システムを利用するなど、システムの柔軟性を見出しました。

なお、最初の段階で相当数の誤報が確認されましたが、時間を追うごとに正確な通報となってきています。

[事業費(うち、国からの補助額・委託額等)]

6,870万円(総務省、地域児童見守りシステムモデル事業)

(問い合わせ先)

塩尻市教育委員会事務局(こども教育部教育総務課教育企画係)

https://www.city.shiojiri.nagano.jp/koe/quest/quest_030.jsp

出典: 地域児童見守りシステムモデル事業 事例集

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/2009/pdf/090109_2_sk.pdf